30

熊坂長範　森川杜園　一点

明治二十六年（一八九三）　木彫、彩色

二一・三×二五・七×三〇・八

31

還城楽　森川杜園　一点

明治二十六年（一八九三）　木彫、彩色

二〇・五×二一・五×二九・五

30

作品番号30は、能楽「熊坂」より熊坂長範の演者を、作品番号31は雅楽「還城楽」より蛇を見つけて喜び舞う舞人の姿を一刀彫りで表した作品。一刀彫りは、荒彫りで面を強調して単純な形態に仕上げるもので、奈良春日大社の周辺で発展し、奈良人形の名手、森川杜園（一八二〇～九四）によるもので、濃密な彩色も杜園が自ら行っている。狂言師でもあった杜園は、芸能への造詣が深く、能や狂言、舞楽に関わる作品を多く手がけた。いずれも収納箱には「謹製　森川杜園　時年七十四」と記される。明治二十六年、杜園の最晩年に宮内省からの依頼により制作され、明治期には明治天皇のお手許にあったと考えられる品で、《熊坂長範》は大正三年に昭憲皇太后の御遺品として雍仁親王（秩父宮）へ、また《還城楽》は大正天皇の御遺品として貞明皇后より雍仁親王（秩父宮）へ引き継がれた品である。

31

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

古典再生——作家たちの挑戦

三の丸尚蔵館展覧会図録No. 72

編集　宮内庁三の丸尚蔵館

制作　株式会社 東京美術

翻訳　黒川廣子

発行　宮内庁

平成二十八年三月二十六日発行

© 2016, The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shozokan